

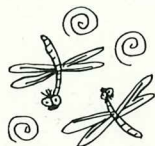


「絵本とわらべうたの会」2026 年度⑤

日 時 9 月 8 日(火) 10:00~11:00
場 所 西公民館 1 階 集会室
定 員 15 組

就園前のこどもとお母さんを対象にわらべうたと絵本の読み聞かせで楽しいひとときを過ごします。

やさしい言葉とゆったりしたリズムで、顔あそび、手あそび、くすぐりあそびなど、親子で触れ合って楽しめます。



「大人のためのおはなし会」2026 年度②

日 時 10 月 2 日(金) 13:30~15:30
場 所 西公民館 1 階 集会室

*事前予約は不要です。

当日は直接会場へいらしてください。

小学校や中学校でこどもたちに語っているおはなしを大人の方に楽しんでもらいたく



思い、お話を開きます。肉声で語られる世界各国の昔話や創作の物語をゆったりとお楽しみください。

市民読書サポーターのいる日程 9 月

市立中央 図書館 (10:00~ 12:00)	5 日 (土)	13 日 (日)
	19 日 (土)	26 日 (土)

児童クラブで本の世界を楽しむ

この夏休み、市民読書サポーターが、児童クラブの「野中東子どもBASE児童クラブ」と「黒田学童クラブ第一」を初めて訪問しました。児童クラブでは、夏休み中の小学 1 年生から 6 年生までの子どもたちが元気に伸び伸びと過ごしています。私たちが訪問すると、子どもたちは「どんな人たちかな？」と最初は少し緊張した様子でしたが、おはなしが始まるとすぐに緊張がほぐれた



ようです。当日は昔話の語りをはじめ、絵本の読み聞かせや、おすすめの本の紹介をしました。1 年生に「赤ずきん」を語った際は、オオカミが赤ずきんを飲み込む場面で子どもたちが目を大きく見開くなど、真剣な眼差しで聞き入る姿が印象的でした。

現在、ボランティアによる小学校での読み聞かせは 10~15 分ほどのため、長い絵本や複数の本を紹介するのは難しいのですが、児童クラブではまとまった時間をいただけるので、じっくりと本の世界を楽しんでもらうことができます。

市民読書サポーターは、児童クラブでの活動を通じて、一冊でも多くの良い本を子どもたちに届けたいと願っています。まだ市民読書サポーターの訪問がない児童クラブの関係者の皆様、ぜひ社会教育課までお気軽にご依頼ください。(市民読書サポーター 時田典子)

おすすめの昔話集 「岩波おはなしの本」の紹介



白いりゅう 黒いりゅう

賈芝・孫剣冰 編
君島久子 訳
赤羽末吉 絵
岩波書店



山の上の火

クーランダー、レスロー文
渡辺茂男 訳
土方久功 絵
岩波書店



りこうなおきさき

モーゼス・ガスター 文
光吉夏弥 訳
太田大八 絵
岩波書店

「岩波おはなしの本」シリーズは、デンマーク、トルコ、スペイン、ロシアなど世界各国の昔話集で全 11 冊。ふりがなも振ってあり、挿し絵も多く読みやすい。

『白いりゅう 黒いりゅう』は中国の少数民族が語り伝えた物語が全 6 編。大工のヤン名人が白い竜を彫り、大暴れして洪水を起こす黒い竜に闘いを挑む「白いりゅう黒いりゅう」や、「九人きょうだい」「くじゃくひめ」など、豊かな発想と壮大なスケールの話にひきつけられる。

『山の上の火』はエチオピアの昔話集。召使いのアルハが冬の山で毛布も火もなしに裸で一晩中立ってられるか、傲慢な主人と賭けをする「山の上の火」や、素朴でユーモアに富む「アディ・ニハスの英雄」「グラのきこり」など全 15 編。

『りこうなおきさき』はルーマニアの昔話集。わがままな王様の出す無理難題を見事に解いた娘がおきさきになる「りこうなおきさき」や、動物を描いた短い寓話「セキレイはなぜしっぽをふる」「カメのせなかにはなぜまいる」など全 13 編。